



素敵な人間性を育むために…

園長 川嶋 佳恵

2学期が始まりました。久しぶりに学級の子供たちがそろい、顔を合わせると、うれしそうに微笑み合ったり、おしゃべりをしたりして再会を喜ぶ様子が見られました。2学期も子どもたちが楽しい園生活を送れるよう尽力してまいります。

さて、皆さんは、素敵な人間性という言葉聞いて、どのようなことを思い浮かべますか？人を思いやることができる、誠実である、謙虚である、相手を尊重した関わりができる、感謝の気持ちを忘れない、責任感がある、常に感情が安定している、マナーや礼儀を理解している、周囲から信頼されている、約束が守れる、嘘をつかない等でしょうか。これらの優れた人間性は、どこで養われるのでしょうか。もちろん持って生まれたものもありますが、経験や環境によって育まれるものだと考えます。子どもたちにとって一番身近なところでは、ご家族との関わりがあります。そして、子供園での生活の中での先生や友達との関わりがあります。ご家庭やご家族は、生まれたときから一緒に生活してきた安定した場であり、わがままを通したり、少しはみ出したりする行動をしても許してくれる人間関係が成立している場だと思います。子どもも大人も言葉が少なくても分かり合える関係です。もちろん、一通りの躾や人に対する態度など教える機会がないとは言いませんが、思わぬ事態に出くわすとか、自分とは全く違う人に出会ったり、ルールを守ったりやり取りをしながら相手と自分の気持ちに折り合いを付けなければならないというようなことは起こりにくい環境だと思います。そのように考えると、幼児期に子どもたちが素敵な人間性を育むために重要な役割を果たしているのが、子供園での経験や人との関わりだと考えます。

水遊びを楽しんでいたある日、そのそばをスズメガの幼虫が歩いていました。子どもたちが遊んでいる場に入っただけなのに、その役割を任された園長の私ですが…実は芋虫系は苦手（なぜか、カブトムシの幼虫は大丈夫）なのです。この仕事をしているので、蝶の幼虫を飼育したり世話をしたりはできますし、成長を楽しみにもしますけれど…突然現れて目の前にいたりすると「きゃー」と叫んでしまうレベルです。そんな私がスズメガの幼虫を移動させることになりました。もちろん手で触ることはできないので、葉っぱで優しくすくおうとしましたが、葉っぱがその幼虫の体に当たるとくねくねと、とても怖い動きをするので、「お願い、おとなしく葉っぱに乗ってちょうだい。」とつぶやきながら悪戦苦闘していました。そこに3歳児クラスのA児がやってきて、しばらく私と幼虫の様子を見ながら微笑んでいます。私が、「Aちゃん、この青虫さん触れる？」と声をかけるとA児は「うん。触れるよ。園長先生、ぼくが、葉っぱの上に乗せてあげるから大丈夫だよ。」と言ってそっと青虫をつまんで移動させてくれました。「Aちゃん、ありがとう。Aちゃんがいてくれて園長先生助かったよ。青虫さん、草のところに帰ってよかった。」と伝えると、照れながらうれしそうに微笑んで「うん！」と言って軽くジャンプしました。A児はまだ3歳児ですが、困っている私に対して、今、自分ができる精一杯のことを考えて言葉と行動で示しています。素敵ですね。これは、相手を思いやる姿のほんの1エピソードにすぎませんが、このような人のために行動した、役に立った経験が積み重なり、それぞれの素敵な人間性につながっていくのだと考えます。そして、素敵な人間性であるということは、人生において人とつながるためにとても重要だと思います。このように相手を思いやり、相手の立場に立って考えて行動したりする場面が子供園の生活にはたくさんあります。一方で、うそをついたり、約束を破ったり、思い通りにいかないことからけんかやトラブル、理不尽な出来事等が起こるのも園生活です。

2学期以降は、どの学級においても発達段階に応じた友達との関わりが深まり、楽しさも増える一方で関係が深まったからこそその思いの行き違いからけんかやトラブルも増えます。心がもやもやしたり、相手の行動や言葉に腹がたったり、「そんな言い方（そんな態度）ないんじゃない？」「そんなつもりじゃなかったのに…」という思いになったりすることも少なくないでしょう。そのような時、子どもたちは未熟であるが故に、けんかやトラブルになり、自制できなくて手が出たり、大きな声で叫んだり、相手を傷つけてしまう言葉や行動をしてしまったりする様子が見られます。子供園では、このような一つひとつの人との関わりの中でのマイナス的と思われる関わりにおいて、もちろん相手を傷つける行為や行動はいけないことをしっかり伝えつつ、その行動や場面について悪いという判断をするのではなく、そのようなお子様の行動の奥底にある思いやもやもやしたものを保育者が言葉にして表現し、その感情をしっかりと共有しながら心を落ち着かせ、相手の立場や思いを考えて行動できるような言葉をかけたり、腹がたった時、もやもやした時、怒りが頂点に達した時でも手を出したり暴言を吐いたりするのではなく落ち着いて対応しながら解決策を考えられる人になれるように指導や援助をしています。子供園では、このようなマイナス的に思えるやり取りの積み重ねも素敵な人間性を育む、重要な経験としてとらえています。私たち保育者が園生活の中で、3歳の頃に嫌なことがあると叫んだり、物を投げたり、手が出てしまったりしていた子が、5歳になると、こんなに相手の立場を考えた行動ができたり、嫌なことがあっても、自分で気持ちを落ち着けて対応できるようになってきたんだと成長を実感することがたくさんあります。子育てをしていると、今のお子様の姿に目が向き、以前はできなかったことができるようになったとしても、できて当たり前と感じるようになりますが、子供園に通い始めた頃を思い返すと、お子様の人間性が育ってきていることに気が付くでしょう。子供園では、その変化を見逃さず、子どもたちにフィードバックすることも大事にしています。自分がした行動を褒められたり、成長を認められたりすることが、さらに人間性を高めることになるからです。

しかし、今はまだ、どの学年の子どもたちもそれぞれの発達に応じた成長過程にあります。けんかやトラブルになると、やり取りの中で、手が出てしまったり、心を傷つけてしまったりすることもあります。もちろん保育者は、そのようなことにならないように細心の配慮をしています。それでも、このようなことが起こった時には、どちらの保護者の方にも情報を共有させていただいています。これは、子どもたちだけの問題ではなく、幼児という年齢のお子様をもつ保護者として正しい状況や実態を知っていることは大事だと考えることと、情報共有したことを踏まえて今後のお子様への関わり方を共有することで、保護者の方と同じ方向を向いて教育・保育に取り組んでいきたいと考えるからです。お子様が相手を傷つけてしまったとか、傷つけられたというような報告を受けると保護者の方もがっかりしたり、悲しい気持ちになったりすることもあると思いますが、そのようなお気持ちも真摯に受け止めながら、「すべては子どもたちのために」をモットーに、誰一人、取り残すことなく大切なお子様の素敵な人間性を育むために力を注いでいきます。

《今月の指導》

★3歳児 うさぎ組

2学期が始まり、保育室に子どもたちの元気な声が戻り、久しぶりにうさぎ組のみんなと一緒に過ごす嬉しさを感じていたようです。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 自分のしたい遊びをしたり、保育者や周りの幼児がしていることに興味をもち関わったりする楽しさを感じる。
- 保育者や周りの幼児と一緒に体を動かす心地よさを味わう。
- 身の回りのことで自分ができることを自分でしようとする。

少しずつ気候の良い日も増えてきていますが、熱中症に気を付けながら、体操やかけっこなど元気に体を動かしていきます。

★4歳児 くま組

2学期が始まりました。子どもたちはくま組の友達と久しぶりに会い、うれしそうに誘い合って遊び始めていました。2学期も、くま組のみんなですごす楽しさをたくさん感じられるようにしていきます。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- いろいろな遊びや友達のしていることに興味・関心をもって自分から関わり、遊ぶことを楽しむ。
- 学級の友達や保育者と一緒に、伸び伸びと体を動かす心地よさや楽しさを感じる。
- 生活に必要なことに気付き、身の回りのことを進んでしようとする。

2学期から降園時間が14時になり、全員保育の時間が長くなります。一人ひとりのペースを大切にしながら、たくさん遊んだり活動したりして、園生活が十分に楽しめるようにしていきます。また、運動会に向けて、みんなで走ったり跳ったりして、体を十分に動かして遊ぶ心地よさや楽しさを味わえるようにしていきます。

★5歳児 ぞう組

2学期が始まりました。ぞう組の子どもたちは、友達との久しぶりの再会を喜び合っていました。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

- 友達と考えを出し合いながら、自分なりのめあてをもって遊ぶ楽しさを味わう。
- 学級の活動の中で、自分の力を十分に出す心地よさや楽しさを味わう。
- 園生活に必要なことが分かり、自分たちで進めていこうとする。

運動会に向けて、リズム表現をしたり、友達と力を合わせて綱を引いたり走ったりして、友達と一緒に体を動かすことを繰り返し行っていきます。また、リズム表現の振りの相談や、係活動など、運動会という共通のめあてに向かって自分の力を十分に発揮できるようにしていきます。

園でたくさん体を動かすことで、疲れがでてくるでしょう。ご家庭でも休息をとりながら、心と体の調子を整えていきましょう。